

が最もよう御座いました。次に価格を申し上げます。

一、明礬に炭酸ソーダ又はアンモニヤを用ゐたる液 九錢

一、福田式 廿五錢

一、醋酸アルミニウム 廿六錢

以上の価格は液量何れも千三百 c.c.

それ故これを作りますには保存上の事又經濟上の事を考へまして適宜にどれでもをなされましたらよろしう御座います。

用途

これは申すに及びません字の通りに水を弾くために必要なもので先づ雨降りの洋傘合羽又は風呂敷などは至極適當して居ります私共が毛繻子の雨傘を明礬を用ひたので防水にいたしました成績は非常に宜う御座いました同様の方法で絹張のものをいたしましたがこの方は液の分量が少ないのと浸し方が不十分でありましたので前者の様なよい成績は得られませんでしたこれをいたしますには液に全部を浸す事が出来ませんから氣永に液を塗り付けました。

注意

其れでこゝに一寸申上げたいと存じますのは何物でもこの防水液に浸します前には其の布の油氣を充分に除き去らねばなりません液を布一丈で一升五合も有りますと充分で御座います何しろ布を浸して充分に浸さるゝほどの液が有ればよいので御座いますとして此の液を繰返して用ひて宜しう御座いますそして繊維は前に述べました通成可く目のつんだ方が成績が佳良で御座います防水度の大小は同質のものでは繊維の太さの小なれば小なるほど防水度は大で有りますと云ふ事は御注意になれば宜しう御座います 以上

元祿時代の繪畫に現はれたる婦人の衣服の模様

技藝科二部三學年 佐藤ふじ

原田ゑい

此の事を驗べるに就ては菱川師宣と西川祐信との浮世繪をとつた事は、等しく元祿の前後に出でて師宣の方は江戸に於いて聲名を博し江戸のライフを代表して居る、祐信の方は京都に於いて頭角を現はし其の地に於いて盛なりき即ち當時に於ける京阪地方を代表して居る。此の意味に於いて二人の繪畫に依つて、元祿時代の婦人の衣服の模様を探りたると云ふ事は、適切なりと思ふ、繪畫より考ふれば實際と何處まで一致して居るか疑問である。されど此の繪畫に依つて時代の嗜



縞物

好と云ふものを中心として考へる時は強ち無意味では無からうと思ふ。模様は種々に分かれたるが之を大別すれば

【有意味之物】自然物或は自然的現象に基づく物  
 人事に關係する物

【無意味之物】幾何學的模様

幾何學的模様

イ製造上以外の事情より來れる物

ロ製造上の事情より來れる物

染方より來れる物

織方より來れる物

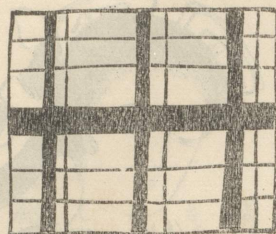
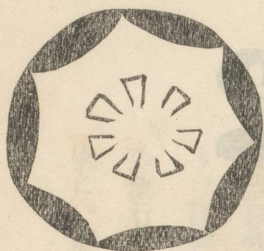
人事に關係する模様とは例へば歴史的題材或は物語を題材としたる物也。

先づ最初幾何的模様より觀察すれば此の模様の中には其の昔何等かの意味のありしものが永き發達の後其の意味の無くなつたものがある。(圖解)(A圖掲)

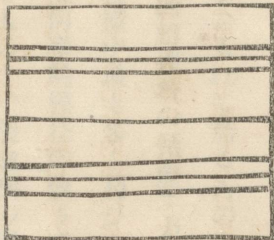
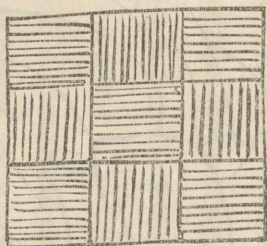
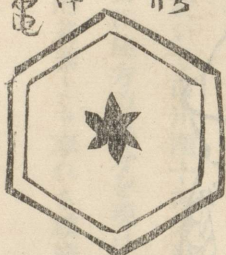
例へば麻の葉、片輪車等の如きものなり。

右に掲げたる部分的模様を如何に處理されたかと云ふに、不規則的に配列せられたるもの多し。而して其等は大体に於いて大形なるもの也。彼等模様が幾何學的模様の本性なる規則的に整理せらるると云ふ事より脱しては居らぬ。之等の模様の中に、他の自然的模様の影響をうけて飛びぐ

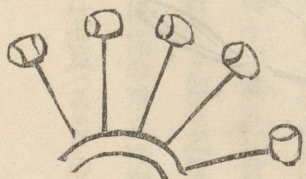
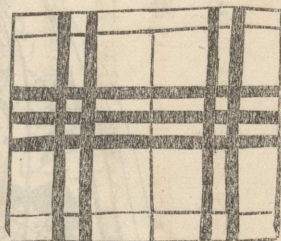
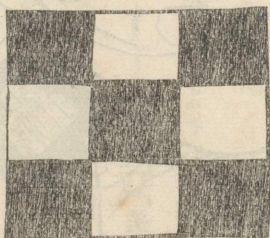
七字つばき



甲形



片輪車

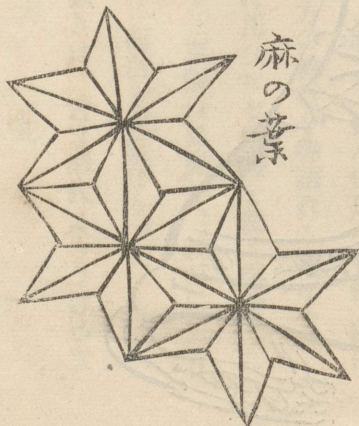


たてわく



ころもき

麻の葉

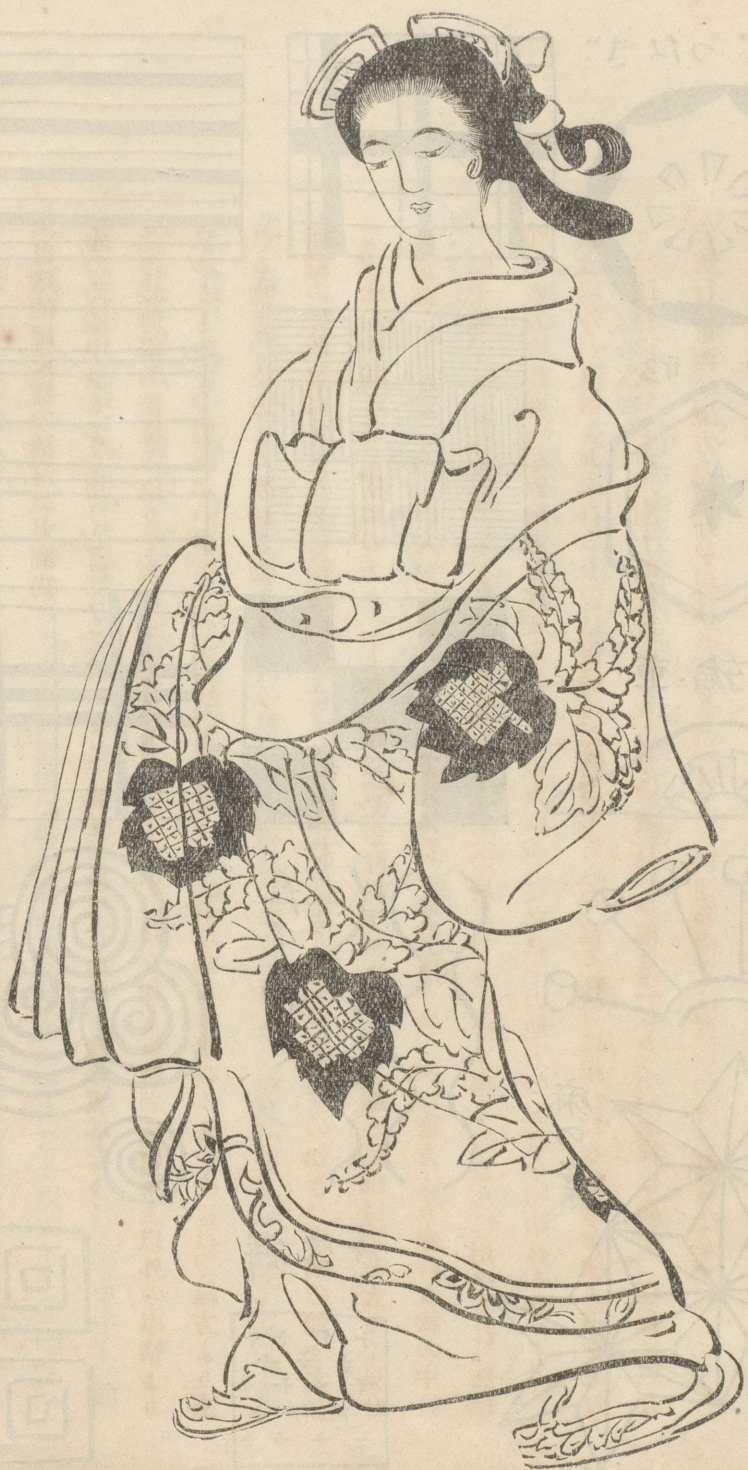


十字紵



三升





に反覆せられて居るものあり。

(自然的總模様の圖解)(B圖掲)

此の模様中最も多く用ひられたるは、三升、鹿子、横縞、市松、麻の葉等なり。

此の幾何學的模様の依りて來れる所を考へるに、表示したる如くに特別に製造上以外の事情より來れるものと、製造法の事情より來れるものとあり。製造法より來れるものの中には、織方より來れる物と、染方より來れる物とあり。

横縞の性狀を有するため横縞の縞よりなれる市松の如き、或は十字縞の如き、横縞の如き之なり。此の中殊に多く横縞のありしと云ふ事は、最も注目すべきである、即ち横縞は柄を大きく見せる。華やかに見せる。これ大いに當時の喜んで用ふる一條件なりき、次に染方より來れる物の中に鹿子染、之は當時京阪に名ありし俳優伊藤小太夫の好みなりといふ事より盛んに用ひられ、殊に祐信の方の繪即ち京阪地方を代表するものの方に多し。之れその地方の流行を物語れる物なり。

製造以外の事情より來れるものは俳優の影響即ち好み、當り狂言に用ひたる模様を使ふ事をしたり、江戸に於いて市川團十郎の好みなる三升の流行せる如き之なり。京阪には鹿子、江戸に三升の流行、東西に地方の氣分を現はしたると思はるゝ模様の兩立は實に面白き現象なり。

次に、歴史的基素より來れる模様であるが、例へば七寶つなぎの如きは、古き時代よりうけつぎ



來れるものなり。(F.S.)

さて次に意味ある模様就いて御話し申し上げますが前の者が既に御話し致しました通り意味ある模様には自然若しくは自然的現象に基いてなされたものと人事に關係したものとに分ける事が出来ます。此の自然物若しくは自然的現象を凡そ三通りに分けて考へる事が出来るのでございます。即ち(一)動物(二)植物(三)動植物以外の自然の形象と。

先づ動物の方より申しますと、獸類を模様としたものは殆ど見出しませんでした。之は一体當時の模様といふ考への一種の特長とも考へる事が出来るのでございます。而らば、如何なるものが用ゐられて居るかと申しますと、蝶類とか、貝類とか鳥類の如きものでございます。此の鳥には千鳥、雁、稀れには孔雀等がございました。(第一圖)

之等を通觀して考へて見ますに千鳥や貝類などの多いといふ事は、孰れも歴史的基礎と理由とをもつて居ります。例へば、千鳥は平安朝以來屢々詩歌に詠はれ、殊に平安朝以後鎌倉時代にかけては、蒔繪の模様として用ゐられ其の遺物は、今日迄も残つて居りますが、此の様なものを受け継いで來たといふ事と、他方に於て、平安時代を復興させるといふ時代の希望との二個の事から來て居るのでございます。

次に貝類の多いのも二つの理由をもつて居ります。其は貝畫の中の「貝合せ」といふ事が藤原時







代に盛に行はれて居りましたが、此の「貝合せ」といふ事柄を意匠して之を模様とした事と、他の一つは、中古以來、「物盡し」といふ事が行はれ、其の「物盡し」なるもの、一種として、「貝盡し」といふ事が屢々行はれました。此の方面からも來て居るといふ事が考へられます。その他、胡蝶とか雁とかいふ模様も、久敷しい間、國民の思想中に醇熟して居るものでありまして、此の様な歴史的基礎あるものを採つて來て模様としての内部的基礎即ち模様の性質の背景として居ります。

此の中でも、千鳥なり貝類なりが模様になつて居る事は我國が島國であるといふ事から來て居る一大特長ではないでせうか。此の島國といふ事と模様といふものとを考へるといふ事は、模様の中の植物、動物以外の自然形象の模様と多少關係ある事でございます。此の様な海岸に松の様な模様の屢々出て來るのを見受けますが之れと千鳥、貝類とは、密接な關係をもつて居るといふ事が考へられるので御座います。(第二圖)

要するに、之等は、島國の特長を表はして居ると認むべきものでございます。

之等の事と同時に更に注目すべき事がございます。其は孔雀の模様が彼等の繪畫の上に表はれて居る事でございます。孔雀といふものが國民の前に著しく注意を引かるゝ様になりましたのは、近世(足利時代の末)以後の事でございます。即ち之は主に彼の所謂南蠻人なるものもつて來た

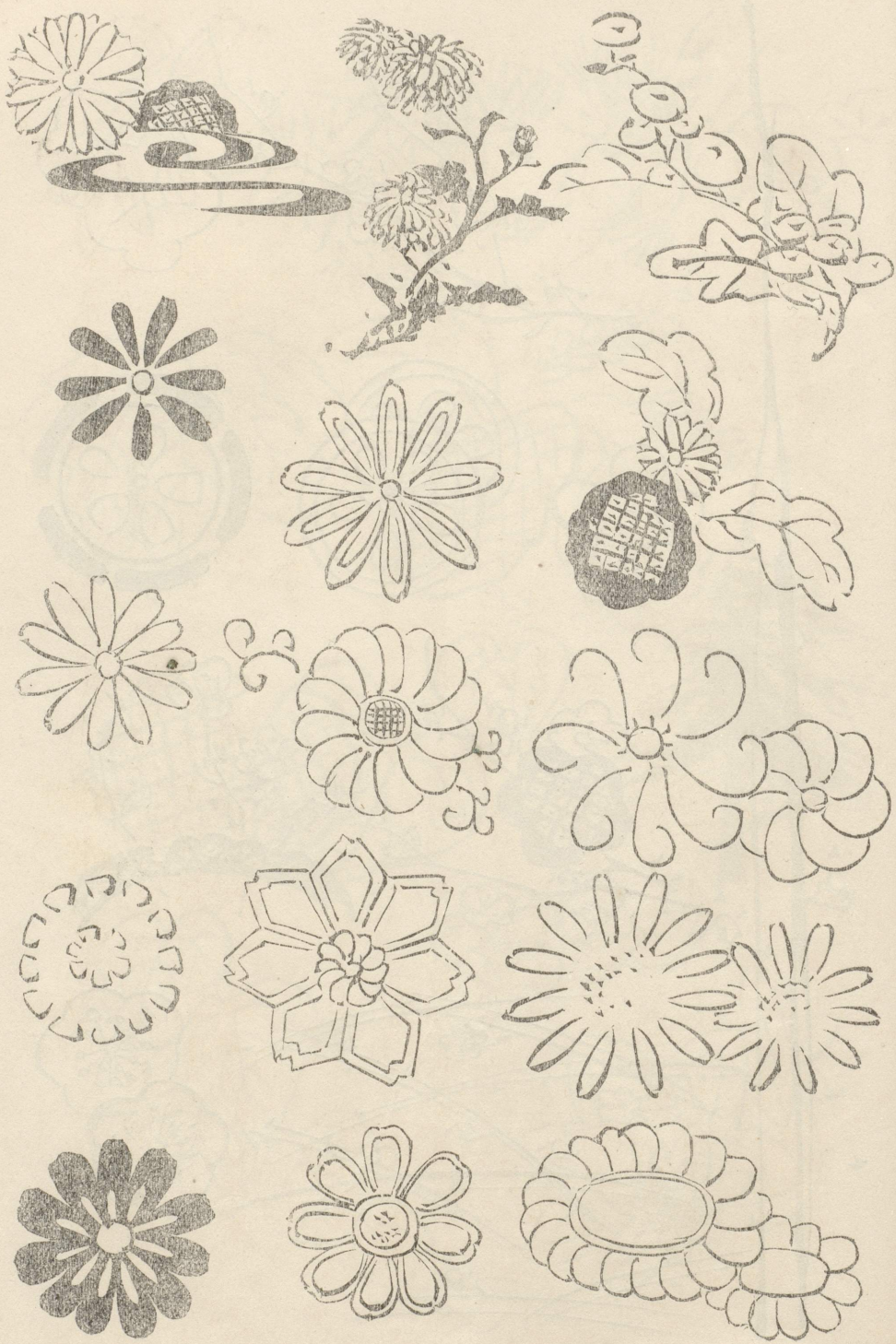


ものでございます。此のものを元祿の頃に模様とした事は、其の羽の色の美しいといふ事からも無論来て居りませうが、此の時代の一種のロマンチックの思想に其の基礎がありはしないのでせうか、丁度今日のハイカラで、好奇心が入つて来たものではございますまいか。

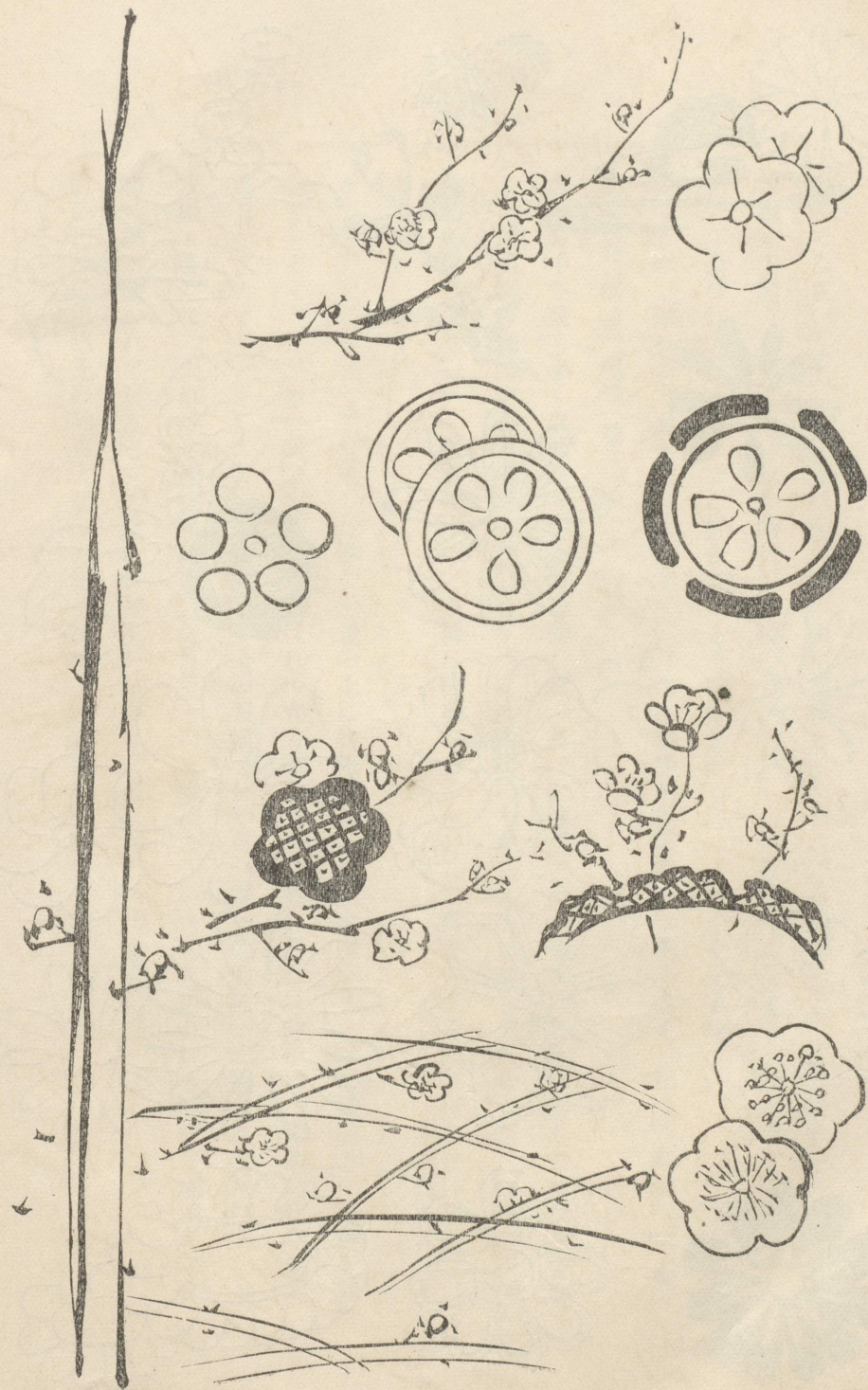
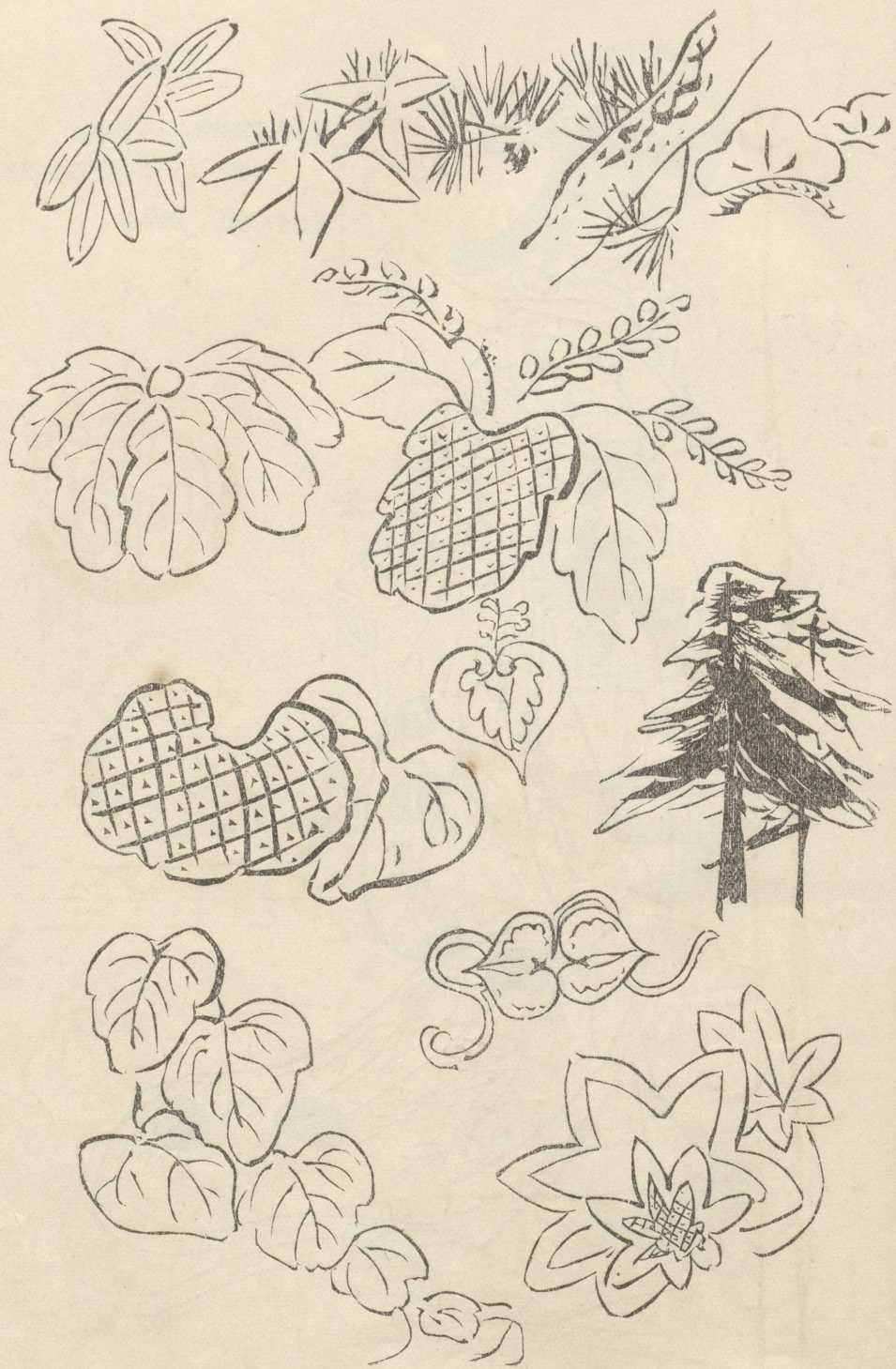
さてまた、植物の方面を考へて見ますに、之れ亦種々の種類が御座います。菊、櫻、梅、松、竹、柳、燕、若葵、桐、葛、楓等(第三、四、五、六圖)

之等の中で最も多く表はれて居るのは櫻、菊、梅、松等でございます。之等の多く表はれて居るのには相當の理由があるのでございます。それは前にも申しました通り、久敷の間、國民の精神生活の中に生き長へて居た花木が、重要な位地にあつたからで御座いますのは怪しむに足らない事で御座います。

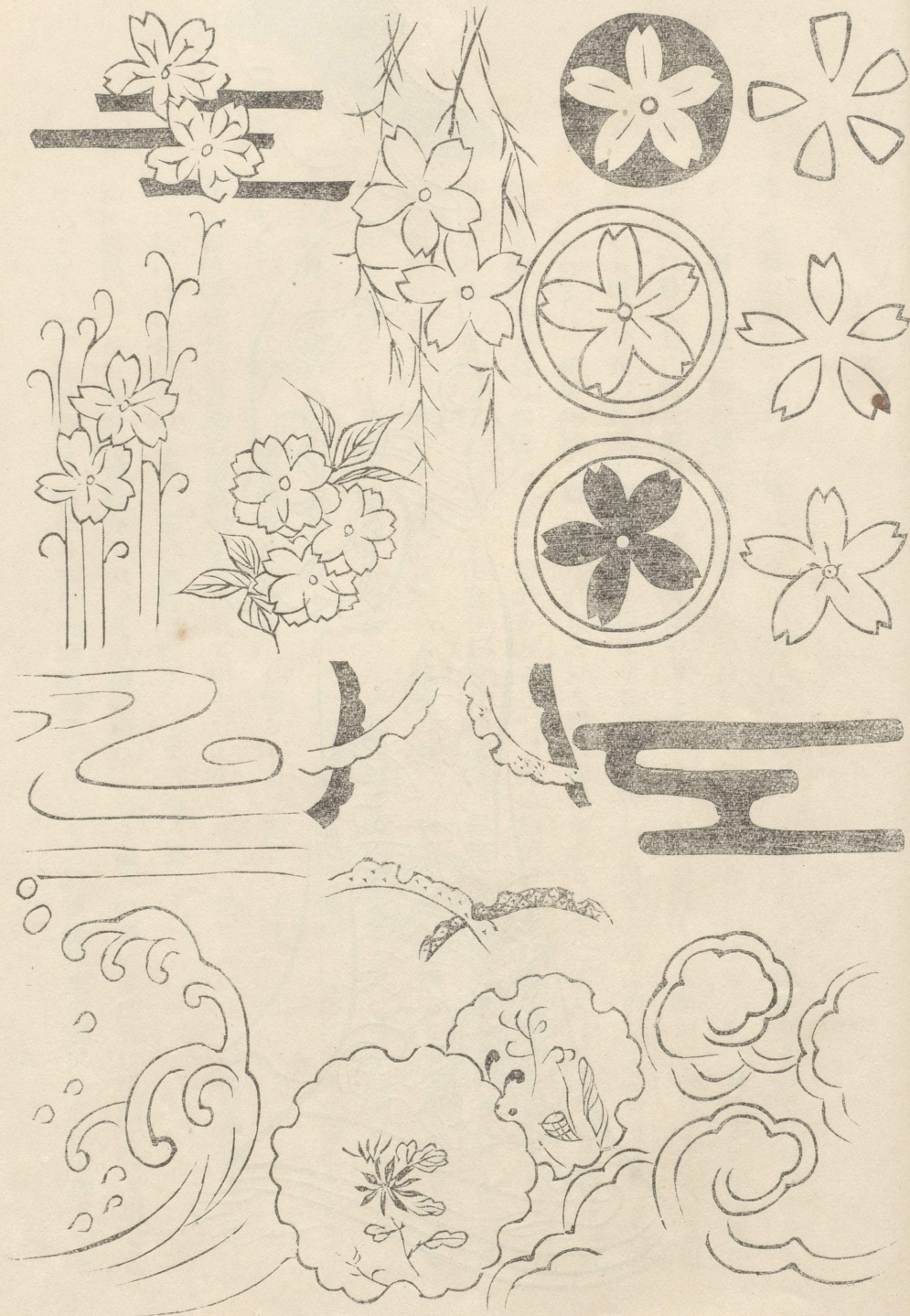
さてまた此の方面に於ては、特殊な思想の上に約束なるものが御座います。松竹梅といふ如き取合せを喜ぶといふ事は随分古くから行はれて参りましたが、盛に行はれたのは、足利時代以後の事でございます。そしてこれ以後は、一つの習慣となつて、三つのものが配列されて模様となつて参りました。夫れから動物の時に「貝合せ」といふ事がございましたがあれと同様な理由の下に盛に柳が書かれて居ります。之れに蹴鞠が結びつけられました。(第七圖)  
之が一つの思想上の約束となつて屢々繪の上に表はれて居ります。















此の外葵の模様の多かつた事は、之は、徳川氏の勢力といふものと関係あるものではないでせうか、又桐の模様は桐が豊太閤の紋章であつたからではないでございませうか。葛の多い事や楓の多かつた事は共に國民思想に關係があるのでございますが、意匠といふ點から申しますと、立田川といふ歌が、此の紅葉の模様が盛に行はせる様に鼓吹して居ると思ふのでございます。また葛は、これまた、伊勢物語の盛に行はれたといふ事に關係があるのでございます。伊勢物語には皆様御承知の通り葛の細道といふ一節がありまして、此の節が特に喜ばれて此の一節に基いて、蒔繪、其の他に意匠されました。今に遺つて居る料紙箱、硯箱にも葛の細道の意匠されたものが澤山に御座います。この様な思想が葛といふ模様の起つて來た一つの原因となつて居る様で御座います。またかきつばたの模様も伊勢物語の八ッ橋の思想から來て居る處が多いと考へられます。時に牡丹の模様のあるのを見出しましたが、之は、桃山時代以後特に行はれて來た處のものでありまして、之は寧ろ、近代的特長を發揮して居るもので御座います。

次に動植物以外の自然の形象の模様に就て申上げるのですが、之にもいろいろ種類が御座います。が、特に目に立つものは雲、雪、浪等で御座います。(第八圖)

浪に關係して居る海岸を模様化した、此の繪の様な(第九圖)の多いのは殊に注目すべき事ではないでせうか、此の事は、特に日本の海國的特長といふものが模様の上に表はれた例で御座いま



す。最も此の事柄に就いては、一方海といふ考へが靜穩なる瀬戸内海に關係して發達して來た趣きがまゝ表はれて居ります。動植物以外の自然形象といふものは、模様となるに及びて次第に幾何學的となる性質がございます。例へば雲の如き又、氷を畫いたもの等の如き次第に幾何學的となる傾向がございます。

最後に、人事に關係した模様といふものは、物語とか傳説等を題材として畫いたものでございましてさき程の伊勢物語から來て居る葛に笈を置いた如きものは即ち之此でございまして。

さていろいろ申上げましたが、要するに二個の代表的作者を通じて見た處の元祿時代の繪畫の上に表はれた婦人の衣服の模様といふものは第一次の二個の著しい事實を考へる事が出來ます。

其の一つは、其等の模様が、或る特別な文學的作品として或は詩歌の題材として國民の精神生活の上に、豊富な基礎をもつた處のものを模様として居る事。他の一つは、近代的精神に依て古きものを採つて新しい事物の中に盛つて兩者の間、充分なる調和を行つて居る事でございまして。

即ち第一の方面のものとして之等模様を見ますと、之等は、孰れも大なる意味に於て復興的精神が漲つて居ります。夫と同時に新事物を何處迄も消化して居る處が第二の方向に於て表はれて居ります。

此の兩者の合したものが元祿模様の大なる精神でございまして。言葉を換へて申しますと古いもの

を取つて來乍ら之れを新しいものとして行ふだけの力があつた事が模様の上にも表はれて居ります。之等は元祿の大藝術の全般に漲つて居る風潮を暗示して居るのではないでせうか。(原因述)

### 糊 に 就 て

- 家一、二 吉 岡 香
- 鈴 木 浪
- 栗 山 つ る
- 五 味 さ く
- 犬 飼 小 春

貼附用糊に就て少し調べましたからそれをお取次申します貼附用糊は貼附する場所により或は其の物の用途材料によつて夫々異つて居ります次に其の種類を擧げ其の成分製法用途について申し上げます。

一、生麩(吟生麩、岩生麩)盤石糊

普通に最も多く使用せられて居りますのは生麩糊でございまして大變丈夫な貼附接合には盤石糊